

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4451107号
(P4451107)

(45) 発行日 平成22年4月14日(2010.4.14)

(24) 登録日 平成22年2月5日(2010.2.5)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 O R 13/04 (2006.01)

B 6 O R 13/04 Z

B 6 O J 5/04 (2006.01)

B 6 O J 5/04 N

請求項の数 6 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2003-346032 (P2003-346032)
 (22) 出願日 平成15年10月3日(2003.10.3)
 (65) 公開番号 特開2005-112045 (P2005-112045A)
 (43) 公開日 平成17年4月28日(2005.4.28)
 審査請求日 平成18年9月29日(2006.9.29)

(73) 特許権者 504136889
 株式会社ファルテック
 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地
 (74) 代理人 100064908
 弁理士 志賀 正武
 (72) 発明者 小林 信二
 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町字藤井32
 0番地 橋本フォーミング工業株式会社内
 (72) 発明者 小倉 賢一
 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町字藤井32
 0番地 橋本フォーミング工業株式会社内
 審査官 三宅 達

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 車両用装飾外装部品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外表面に意匠面を有する外装部品が、この外装部品の前記外表面と反対側である裏側に設けられたブラケットおよび該ブラケットに装着された取付部材を介して車体側に取り付けられる車両用装飾外装部品であって、
 前記ブラケットは、前記外装部品の裏面に固着されるブラケット本体と、前記取付部材が装着される1個以上の座面部とを有し、前記座面部のうち前記意匠面の裏側に位置するものは、前記外装部品の裏面との間に間隙を保った状態で、前記ブラケット本体よりも薄肉で、弾性的に撓み変形可能な肉薄部を介して前記ブラケット本体から延出していることを特徴とする車両用装飾外装部品。

【請求項 2】

前記ブラケットは、前記外装部品よりも可撓性に優れた材料から形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の車両用装飾外装部品。

【請求項 3】

前記ブラケットは、両面粘着テープによって前記外装部品に固着されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の車両用装飾外装部品。

【請求項 4】

外表面に意匠面を有する外装部品と、この外装部品の前記意匠面と反対側である裏面に突設された突出部と、取付部材が装着される1個以上の座面部とを有し、前記座面部の少なくとも一つが、前記外装部品の裏面との間に間隙を保った状態で、前記突出部よりも薄

肉で、弾性的に撓み変形可能な肉薄部を介して前記突出部から延出していることを特徴とする車両用装飾外装部品。

【請求項 5】

前記座面部には、前記取付部材を収容するボスが突設されていることを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の車両用装飾外装部品。

【請求項 6】

前記取付部材が締結部材であることを特徴とする請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の車両用装飾外装部品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、少なくとも一箇所が締結部材を介して車体側に取り付けられる車両用装飾外装部品に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、ドアもしくはドアサッシュに隣接して車体に取り付けられる外装部品として、例えばコーナーカバーやピラーガーニッシュがある。また、フードパネルやトランクリッドパネルに取り付けられる外装部品として、例えばフードモールディングやリアフィニッシャーがある。上記に例示される車両用外装部品を車体側に取り付けるには、外装部品の大きさや形状等を考慮して、ボルト、スクリュー、ビス等の締結部材、クリップ等の弾性係合部材、両面粘着テープ等の固着手段のいずれか単独もしくは複数種類の組み合わせが用いられる。

20

通常、上記に例示した車両用外装部品を車体側に取り付けるにあたっては、取付箇所のうち必ず 1 箇所には、ボルト、スクリュー、ビス等の締結部材が用いられ（取付箇所の総数は、一箇所の場合もあり、複数箇所の場合もある）、締結部材を車内側から締め付けるようにしている。例えば、外装部品がドアもしくはドアサッシュに隣接して設けられるものの場合、外装部品が外されるとそこからドアをこじ開けられてしまうおそれがあるが、締結部材の締付により、故意に強い力が掛かっても容易に外れないようになる。また、外装部品がフードパネルやトランクリッドパネルのような頻繁に開閉されるパネルに取り付けられるものである場合、締結部材の締付により、パネルの開閉によるガタつきの発生が防止される。

30

【0003】

上述のような外装部品として、例えば、特許文献 1 に記載のコーナーカバー（当該出願書類ではデルタカバー）におけるコーナーカバーアウトがある。このコーナーカバーアウトは、正面視略三角形形状をなし、裏面にビスの締付のためのボスが突設されている。このコーナーカバーアウトは、窓ガラスを上下にスライド可能にガイドするコ字溝状のガイドレール（当該出願書類ではデルタドアサッシュ）に溶接されたブラケットに対してビスで締結されている（特許文献 1 の図 3，図 4 を参照）。

【特許文献 1】特開 2003 - 104057 号公報

【発明の開示】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、ブラケットをガイドレールに溶接する際、溶接位置にはバラツキが生じる。ブラケットの溶接位置が車内側にずれた場合、コーナーカバーアウトの裏面とブラケットの取付部との距離が長くなるので、規定のトルクまで締結部材を締め付けたときに、締結部材の締付け量が多くなる。コーナーカバーアウトの両側縁は裏側にガイドレールおよびドアサッシュが当接しているため、コーナーカバーアウトが締付箇所を中心として車内側に引き込まれるように変形し、外観が窪んだような歪が生じてしまう。このように、外装部品が取り付けられる車体側の構造物の位置のバラツキにより、外装部品に歪が生じることがあり、このため、外観不良が問題になることがある。

50

外装部品では、外装部品の外表面の装飾性、意匠性のため、外表面に塗膜層、金属薄膜層、エンボス加工（シボ加工）などの表面処理を施すのが通常である。特に高級感が要求される車種では、外表面には、蒸着、スパッタリング、めっきなどの手法により金属薄膜層が形成されるものがある。上記の歪は、特に、外表面に金属薄膜層が形成された場合に、特に視認されやすく、ごくわずかな歪であっても外観不良として問題になるおそれがある。

【0005】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、車体側への確実な取付状態を確保しつつ、外表面の変形や歪等の発生を抑制できる車両用装飾外装部品を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記課題を解決するため、本発明は、外表面に意匠面を有する外装部品が、この外装部品の前記外表面と反対側である裏側に設けられたブラケットおよび該ブラケットに装着された取付部材を介して車体側に取り付けられる車両用装飾外装部品であって、前記ブラケットは、前記外装部品の裏面に固着されるブラケット本体と、前記取付部材が装着される1個以上の座面部とを有し、前記座面部のうち前記意匠面の裏側に位置するものは、前記外装部品の裏面との間に間隙を保った状態で、前記ブラケット本体よりも薄肉で、弾性的に撓み変形可能な肉薄部を介して前記ブラケット本体から延出していることを特徴とする車両用装飾外装部品を提供する。

前記ブラケットは、前記外装部品よりも可撓性に優れた材料から形成されていることが好ましい。

前記ブラケットは、両面粘着テープによって前記外装部品に固着した構成も採用可能である。

【0007】

また、本発明は、外表面に意匠面を有する外装部品と、この外装部品の前記意匠面と反対側である裏面に突設された突出部と、取付部材が装着される1個以上の座面部とを有し、前記座面部の少なくとも一つが、前記外装部品の裏面との間に間隙を保った状態で、前記ブラケット本体よりも薄肉で、弾性的に撓み変形可能な肉薄部を介して前記突出部から延出していることを特徴とする車両用装飾外装部品を提供する。

【0008】

上記本発明においては、前記座面部には、前記取付部材を收容するボスを突設することもできる。本発明は、前記取付部材が締結部材である場合に効果をより発揮する。

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、取付部材が装着される座面部が片持ち梁として機能し、外装部品が取り付けられる車体側構造物の位置のバラツキに追従できるようになっているので、外装部品の該表面に変形や歪等が発生せず、車体側への確実な取付状態を確保しつつ、外装部品の外観品質を良好に保つことができる。

座面部を外装部品とは別体のブラケットに設けた場合（請求項1）、外装部品の成形に際してヒケの発生が抑制され、極めて良好な外観品質を得ることができる。特に、座面部が前記ブラケット本体よりも薄肉で、弾性的に撓み変形可能な薄肉部を介して延在しているので、車体側構造物の位置のバラツキに対する座面部の追従性が増す。

ブラケットが外装部品とは別体品である場合に、ブラケットが外装部品よりも可撓性に優れた材料から形成されている場合（請求項2）、片持ち梁として機能する座面部を容易に形成できる。

座面部を外装部品の裏側に突出した突出部に設けた場合（請求項4）、ブラケットを別体に設ける場合と比較して低コストで製造することができる。特に、座面部が前記突出部よりも薄肉で、弾性的に撓み変形可能な薄肉部を介して延在しているので、車体側構造物の位置のバラツキに対する座面部の追従性が増す。

10

20

30

40

50

座面部に取付部材を收容するボスが突設されている場合（請求項6）、取付部材がボスに確実に保持される。

ブラケットが両面粘着テープにより外装部品に固着されている場合（請求項3）、取付部材の軸線を回転中心にしたねじり荷重に対して両面粘着テープが追従できるので、座面部の締め付けトルクに対する耐久性が向上する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、最良の形態に基づき、図面を参照して本発明を説明する。

図1は、車両外観の一例を示す斜視図である。図2は、本発明の車両用装飾外装部品の第1形態例を示す裏面図である。図3は、図2のS A - S A 線に沿う断面図である。図4は、図2のS B - S B 線に沿う断面図である。

10

【0011】

本形態例の車両用装飾外装部品は、図1に示す車両10のサイドドア（詳しくはフロントドア11）に設けられるカバーフロントドアコーナー1である。

図1に示すように、フロントドア11においてドアサッシュ50は、フロントドア11のウエスト部13の上側外縁に沿って屈曲した形状に設けられている。ドアサッシュ50の側辺部には、該ドアサッシュ50に隣接して配置されたガイドレール56の上端部が連結されている。

カバーフロントドアコーナー1は、ドアサッシュ50とガイドレール56とウエスト部13に囲まれる隅部を覆うように取り付けられている。

20

【0012】

図3、図4に示すように、ドアサッシュ50は、車内側（図3の右下側、図4の上側）に張り出した閉断面部51と、ドアサッシュ50の内周側に形成された溝部52と、溝部52よりも車外側に形成されたフランジ部53とを有し、これらが一枚の板材を基礎に、ロール成形法等によって一体的に形成されたものである。ドアサッシュ50とガイドレール56との間には、レインフォース54が配設されている。レインフォース54は、ドアサッシュ50の溝部52とガイドレール56の背面とに対して、溶接等の手法により接合されている。レインフォース54には、カバーフロントドアコーナー1を取り付けるための取付穴55が穿設されている。

【0013】

30

図2、図3、図4に示すように、カバーフロントドアコーナー1は、三角形形状をした板状のカバー本体21と、このカバー本体21の外表面22と反対側である裏側に設けられたブラケット30と、このブラケット30に装着された取付部材40とを備える。

カバー本体21は本発明の請求項における外装部品であり、ABS樹脂やポリプロピレン樹脂など、適宜の合成樹脂材から形成したものをを用いることができる。カバー本体21の外表面22には、車外側に露出される意匠面を有する。カバー本体21の意匠面には、塗膜層、金属薄膜層、エンボス加工（シボ加工）などの表面処理が施される。特に、蒸着、スパッタリング、めっきなどの手法により金属薄膜層を形成すると、金属的な光輝のため、より高い装飾性が得られる。

【0014】

40

図3、図4に示すように、カバーフロントドアコーナー1を車体側に取り付けた状態では、ドアサッシュ50（詳しくは、フランジ部53の車外側の面）およびガイドレール56がカバー本体21の裏面23に近接または当接するように配置される。カバー本体21の裏面23には、ドアサッシュ50およびガイドレール56との緩衝のため、発泡材を基材として有する粘着シール材42、43を貼着しておくことが好ましい。これにより、カバー本体21とドアサッシュ50およびガイドレール56との隙間が粘着シール材42、43の発泡材により埋められ、カバー本体21がドアサッシュ50およびレインフォース54に衝突することによる打音の発生と風切り音の発生を防止できる。

図4に示すように、カバー本体21の裏面23がガイドレール56の側面に面する箇所には、複数のリブ25が平行に並設されているが、これらリブ25によれば、カバー本体

50

２１の肉厚を過度に大きくすることなく、カバー本体２１とガイドレール５６との隙間を小さくすることができ、カバー本体２１のヒケを抑制できる。

さらに、フロントドア１１のウエスト部１３に面するカバー本体２１の裏面２３の下端縁２６にも緩衝用の粘着シール材４４を貼着しておく为好ましい。

【００１５】

ブラケット３０は、カバー本体２１の裏面２３に固着されるブラケット本体３１と、このブラケット本体３１から延出し、取付部材４０が装着される座面部３４とを有する。座面部３４は、ブラケット本体３１よりも厚みが薄くなっており、カバー本体２１の裏面２３との間に隙隙３５が確保されている。座面部３４とブラケット本体３１との間には、ブラケット本体３１よりも薄肉であり、弾性的に撓み変形が可能な薄肉部３３（易変形部）が介在している。これにより、ブラケット３０がブラケット本体３１と座面部３４との間で撓み変形しやすくなり、座面部３４が片持ち梁として機能するようになる。ここで薄肉部３３とは、ブラケット本体３１若しくは座面部３４のいずれかと比較して相対的に板厚の薄い部分を意味するものであり、易変形部として機能するものであれば良く、その形状は特に限定されない。

10

ブラケット３０は、弾性変形が可能な材料から構成される。例えば、ＡＢＳ樹脂やポリプロピレン樹脂など、適宜の合成樹脂材から一体形成したものをを用いることができる。ブラケット３０は、カバー本体２１と同一材料から形成したものをを用いることもできるが、カバー本体２１（外装部品）よりも可撓性に優れた材料（例えばポリアセタール樹脂）から形成したものをを用いることも可能である。

20

【００１６】

ブラケット本体３１は、両面粘着テープ３２によってカバー本体２１の裏面２３に固着されている。両面粘着テープ３２としては、例えば、プラスチックフィルム等からなる支持体の両面に粘着剤を塗布したものをを用いることができる。被着体表面への追従性の点から発泡体を支持体とするものが好ましく、特にアクリルフォームを用いたものが好ましい。また、カバー本体２１の裏面２３およびブラケット本体３１の両面粘着テープ３２が貼着される側の面３１ａの被貼着部に予めプライマーを塗布しておくタイプの両面粘着テープ３２を採用してもよい。

ブラケット３０とカバー本体２１の固着手段が両面粘着テープ３２である場合、カバー本体２１にヒケ等の欠陥が生じることがないため、カバー本体２１の外表面を極めて美麗に形成することができる。

30

なお、ブラケット３０がカバー本体２１（外装部品）と相溶性のある樹脂からなる場合、溶着によりブラケット３０をカバー本体２１の裏面２３に固着する方法を採用することもできる。相溶性のある樹脂の組み合わせとしては、例えば、両者が同一材料（例えばＡＢＳ樹脂）からなる場合が挙げられる。溶着方法としては、超音波溶着、高周波誘電加熱溶着など、公知の方法が利用可能である。超音波溶着による場合、ブラケット３０側の溶着面に溶融のための突起を複数個形成しておくのが好ましい。

カバー本体２１の裏面２３には、ブラケット３０を取り囲むような位置に、リブ２４が突設されている。リブ２４は、ブラケット３０の三辺それぞれに対応して設けられており、ブラケット本体３１を取り付ける際に、ブラケット本体３１の側縁部をリブ２４と当接することにより、ブラケット本体３１を位置決めすることができる。

40

【００１７】

図２に示すカバーフロントドアコーナー１では、座面部３４は、ブラケット３０の３箇所の隅部のそれぞれに設けられている。ブラケット３０は、全体的に、カバー本体２１よりも小さく、略相似の三角形状をしている。座面部３４には、取付部材４０が装着される装着穴３６ａを有するボス３６が、ブラケット３０の裏側に向けて突設されている。

なお、座面部３４および取付部材４０の個数や配置は、外装部品の種類や寸法などに応じて適宜設計できる事項であり、本発明を特に限定するものではない。取付部材４０は１個でも複数個でもよい。

【００１８】

50

取付部材 40 は、好ましくは、ボルト、スクリュー、ビス、ナット等の締結部材が用いられる。本形態例では、取付部材 40 として、ボルト 40 a の頭部がインサート成形により ABS 等の合成樹脂からなる基部 40 b に埋め込まれた構成の部品が用いられており、取付部材 40 は、その基部 40 b を、ボス 36 の装着穴 36 a に収容して接着、溶着等することにより、座面部 34 に固着される。カバーフロントドアコーナー 1 は、ボルト 40 a のねじ部をレインフォース 54 の取付穴 55 に挿入して車内側からナット 41 を締結することにより、車体側に取り付けられるようになっている。

なお、取付部材 40 は、ボルトなどの雄ねじに限定されるものではなく、ナット等の雌ねじであってもよいことはいふまでもない。

【0019】

本形態例のカバーフロントドアコーナー 1 においては、特に必須のものではないが、図 2、図 4 に示すように、ブラケット 30 の脱落を防止するため、ブラケット 30 をカバー本体 21 側に押さえる押さえ部材 37 が設けられている。押さえ部材 37 は、前記位置決めリブ 24 に沿って延びる基部 37 b と、リブ 24 の先端部に嵌合するように前記基部 37 b の一端側から屈曲した

嵌合部 37 a と、この嵌合部 37 a から更にブラケット本体 31 の裏面 31 b 側に突出する突出部 37 c とを有する。基部 37 b の嵌合部 37 a と反対側の端部は、カバー本体 21 の裏面 23 に当接している。

押さえ部材 37 は、嵌合部 37 a がリブ 24 の先端部に嵌合し、基部 37 b がカバー本体 21 の裏面 23 および / またはリブ 24 に接着されることにより、カバー本体 21 に固着されている。ブラケット本体 31 は、押さえ部材 37 の先端の突出部 37 c とカバー本体 21 との間に配置されるので、万が一、両面粘着テープによる固着が外れた場合でも、カバー本体 21 の脱落を防止することができる。

【0020】

以上のように構成された車両用装飾外装部品 1 (カバーフロントドアコーナー) によれば、レインフォース 54 の溶接位置に、車両の内外方向 (図 3 の X 方向) にバラツキが生じていても、座面部 34 がブラケット本体 31 側を固定端とする片持ち梁として機能するようになり、取付部材 40 を締結する際に、矢印 R で示すように、レインフォース 54 の取付穴 55 の位置のずれに追従することができる。これにより、カバー本体 21 の裏面 23 とレインフォース 54 の取付穴 55 との距離 L にバラツキがあっても、座面部 34 の位置がレインフォース 54 の位置に追従して変化するだけで、カバー本体 21 を設計どおりの位置に保つことができる。従って、カバー本体 21 の外表面 22 に歪や変形等が発生することがなく、車両用装飾外装部品 1 の外観の品質を良好に保つことができる。また、前記距離 L のバラツキにかかわらず、取付部材 (締結部材) 40 を規定の締付けトルクまで締結することができ、車両用装飾外装部品 1 を車体側に確実に取り付けることができる。

【0021】

座面部 34 とブラケット本体 31 との間に、弾性的に撓み変形が可能な薄肉部 33 (易変形部) が介在しているので、ブラケット 30 がブラケット本体 31 と座面部 34 との間で撓み変形しやすくなり、レインフォース 54 の溶接位置のずれに対する追従性が増す。

ブラケット 30 が両面粘着テープ 32 によりカバー本体 21 に固着されているので、締結部材 40 の締結に際し、締結部材 40 の軸線方向の位置の追従に加えて、締結部材 40 の回転方向へのねじり荷重に対して両面粘着テープ 32 が追従できる。その結果、座面部 34 の締め付けトルクに対する耐久性が向上する。

外表面 22 を有する外装部品 21 (カバー本体) とブラケット 30 とを、別体品として構成したので、外装部品 21 の成形に際してヒケの発生が抑制され、極めて良好な外観品質を得ることができる。外装部品 21 の外表面 22 に金属薄膜層が形成された場合や、光沢のある塗装 (塗膜層) が施された場合などに、特に有効である。

【0022】

次に、本発明の車両用装飾外装部品の第 2 形態例を、図 5 を参照して説明する。図 5 において、図 1 ~ 図 4 で用いた符号と同一の符号は、図 1 ~ 図 4 の構成と同一または同様の

10

20

30

40

50

ものであることを表し、重複する説明を省略する。

この車両用装飾外装部品 1 は、コーナーフロントドアカバーであり、図 5 は、第 1 形態例のコーナーフロントドアカバーに係る図 3 の断面図と対応した箇所の切断面を示す断面図である。

図 5 に示すコーナーフロントドアカバー 1 は、外表面 2 2 に意匠面を有するカバー本体 2 1 (外装部品) と、この外装部品 2 1 の外表面 2 2 と反対側である裏面 2 3 に突設された突出部 2 7 と、この突出部 2 7 から延出し、取付部材 4 0 が装着される座面部 3 4 とを有する。

本形態例の車両用装飾外装部品 1 では、外装部品 2 1 と突出部 2 7 と座面部 3 4 が、弾性変形が可能な材料により、一体品として構成されている。例えば、ABS 樹脂やポリプロピレン樹脂など、適宜の合成樹脂材から一体形成したものをを用いることができる。

外装部品 2 1 は外表面 2 2 は、車外側に露出される意匠面となっている。外装部品 2 1 の外表面 2 2 には、光沢のない艶消し塗装やエンボス加工 (シボ加工) など、表面処理が施されている。

【0023】

取付部材 4 0 は、ここではボルトが用いられている。取付部材 4 0 は、先端部のネジ部を露出させ、頭部側が座面部 3 4 と一体に成形されたボス 3 6 に埋め込まれるようにインサート成形されている。本形態例のカバーフロントドアコーナー 1 は、ボルト 4 0 のネジ部をレインフォース 5 4 の取付穴 5 5 に挿入して車内側からナット 4 1 を締結することにより、車体側に取り付けられる。

座面部 3 4 は、カバー本体 2 1 の裏面 2 3 から間隙 3 5 を確保している。座面部 3 4 と突出部 2 7 との間には、弾性的に撓み変形が可能な薄肉部 3 3 (易変形部) が介在している。このような構成により、座面部 3 4 が突出部 2 7 を固定端とする片持ち梁として機能するようになる。

【0024】

以上のように構成された車両用装飾外装部品 1 (カバーフロントドアコーナー) によれば、レインフォース 5 4 の溶接位置に、車両の内外方向 (図 5 の X 方向) にバラツキが生じていても、座面部 3 4 が突出部 2 7 を固定端とする片持ち梁として機能するようになり、取付部材 4 0 を締結する際に、矢印 R で示すように、レインフォース 5 4 の取付穴 5 5 の位置のずれに追従することができる。これにより、外装部品 2 1 の裏面 2 3 とレインフォース 5 4 の取付穴 5 5 との距離 L にバラツキがあっても、座面部 3 4 の位置がレインフォース 5 4 の位置に追従して変化するだけで、外装部品 2 1 の位置を設計どおりの位置に保つことができる。従って、外装部品 2 1 の外表面 2 2 に歪や変形等が発生することがなく、車両用装飾外装部品 1 の外観の品質を良好に保つことができる。また、前記距離 L のバラツキにかかわらず、取付部材 (締結部材) 4 0 を規定の締付けトルクまで締結することができ、車両用装飾外装部品 1 を車体側に確実に取り付けることができる。

【0025】

また、座面部 3 4 を外装部品 2 1 とは別体品のブラケット 3 0 に設けた場合 (上記第 1 形態例) と比較して、組立作業の工数を少なくすることができ、低コストで製造することができる。

外装部品 2 1 に、その裏面 2 3 から突出する形状の突出部 2 7 を一体成形したので、外装部品 2 1 の外表面 2 2 には、突出部 2 7 に対応する部位に、ヒケが生じるおそれがあるが、意匠面の仕様が、艶消し塗装やエンボス加工など、ヒケが目立たない表面処理になっているので、外観品質に与える影響を十分に小さくすることができる。

【0026】

次に、本発明の車両用装飾外装部品の第 3 形態例を、図 6 を参照して説明する。図 6 において、図 1 ~ 図 5 で用いた符号と同一の符号は、図 1 ~ 図 5 の構成と同一または同様のものであることを表し、重複する説明を省略する。

本形態例の車両用装飾外装部品 1 は、コーナーフロントドアカバーである。この車両用装飾外装部品 1 は、外装部品 2 1 の外表面 2 2 のうち、突出部 2 7 に対応する部位に、エ

10

20

30

40

50

ンブレム４５を固着するための凹部２８を有することを除いて、第２形態例の車両用装飾外装部品と同様に構成されている。エンブレム４５は、両面粘着テープ４６によって外装部品２１の外表面２２に凹設された凹部２８に固着されている。

外装部品２１の外表面２２には、光沢のない艶消し塗装やエンボス加工（シボ加工）など、表面処理が施されている。

本形態例の車両用装飾外装部品によれば、第２形態例の車両用装飾外装部品と同様の作用効果を得ることができる。さらに、突出部２７に対応する部位にエンブレム４５が固着されるので、突出部２７の反対側にヒケが生じたとしても、エンブレム４５でヒケを覆い隠すことができ、外観品質に与える影響を避けることができる。

【００２７】

10

以上、本発明を好適な実施の形態に基づいて説明してきたが、本発明は上述の実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々の改変が可能である。

例えば、上述の各実施形態においては、座面部にボスを形成し、取付部材をボスに固着する形態を示したが、本発明は特にこれに限定されるものではない。例えば図７に示すように、座面部３４に取付部材４０（ボルトの頭部またはナット）を埋設し、取付手段を座面部に直接一体的に形成することも可能である。

【００２８】

本形態例の車両用装飾外装部品は、フロントドア１１のコーナーに設けられるカバーフロントドアコーナーに限定されるものではなく、他の外装部品にも適用可能である。

20

例えば、ドアもしくはドアサッシュに隣接して車体に取り付けられる外装部品としては、フロントドア１１に取り付けられるカバーフロントドアコーナー１やリアドア１２に取り付けられるカバーリアドアコーナー２などのカバーコーナー、カバーフロントフェンダー３、ピラーに取り付けられるＡピラーフィニッシャー４、Ｂピラーフィニッシャー５、Ｃピラーフィニッシャー６、Ｄピラーフィニッシャー７などのピラーガーニッシュ、バックドアに取り付けられるフィニッシャー（図示略）などがある。

また、フードパネル１４やトランクリッドパネルに取り付けられる外装部品として、フードモールディング８やリアフィニッシャーがある。

外装部品が長尺で、外表面の一部が車体パネル等に覆い隠されるようになっている場合、意匠面は、外表面のうち車外側に露出される部分に設定すればよい。取付部材が装着される座面部のうち、意匠面の裏側に位置するものは、外装部品の裏面との間に間隙を保った状態にする。また、意匠面の裏側に位置する取付部材は、ボルト、スクリュー、ビス等の締結部材とするのが好ましい。外装部品の外表面のうち車外側に露出されない部分については、座面部は外装部品の裏側に突出したボックス部でも良く、取付部材は、ボルト、スクリュー、ビス等の締結部材、クリップ等の弾性係合部材、両面粘着テープ等の固着手段のいずれであっても差し支えない。

30

【産業上の利用可能性】

【００２９】

本発明は、外表面に意匠面を有する外装部品を車両の車体側に取り付ける際に利用することができる。

40

【図面の簡単な説明】

【００３０】

【図１】車両外観の一例を示す斜視図である。

【図２】本発明の車両用装飾外装部品の第１形態例を示す裏面図である。

【図３】図２のＳＡ－ＳＡ線に沿う断面図である。

【図４】図２のＳＢ－ＳＢ線に沿う断面図である。

【図５】本発明の車両用装飾外装部品の第２形態例を示す断面図である。

【図６】本発明の車両用装飾外装部品の第３形態例を示す断面図である。

【図７】本発明の車両用装飾外装部品の第４形態例を示す断面図である。

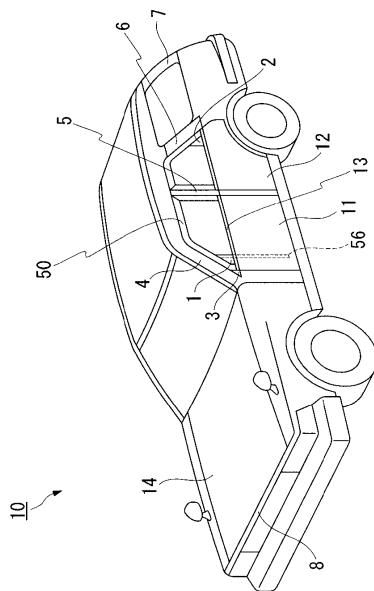
【符号の説明】

50

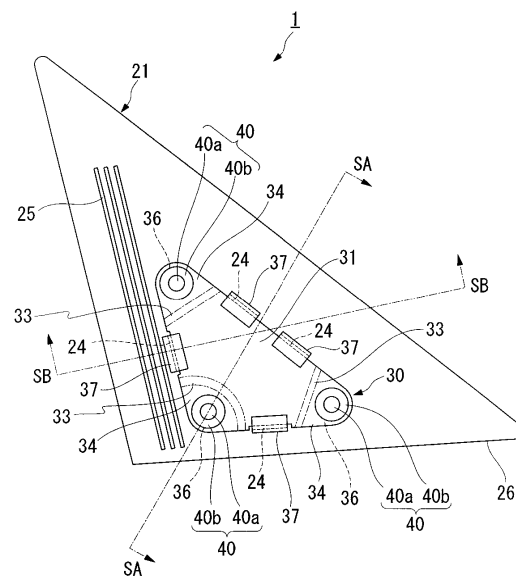
【 0 0 3 1 】

1 ... 車両用装飾外装部品（カバーフロントドアコーナー）、2 1 ... 外装部品（カバー本体）、2 2 ... 外装部品の外表面、2 3 ... 外装部品の裏面、3 0 ... ブラケット、3 1 ... ブラケット本体、3 2 ... 両面粘着テープ、3 3 ... 薄肉部、3 4 ... 座面部、3 5 ... 座面部と外装部品の裏面との間隙、3 6 ... ボス、4 0 ... 取付部材（締結部材）。

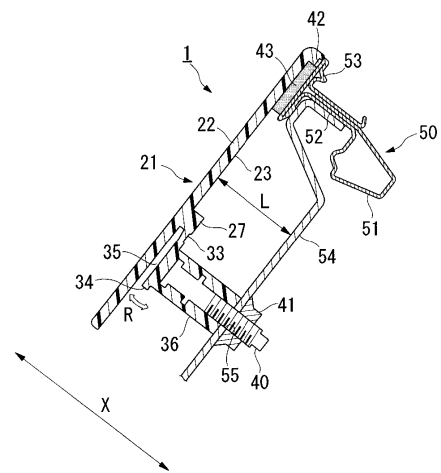
【 図 1 】



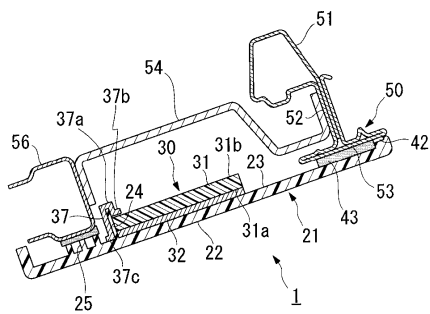
【 図 2 】



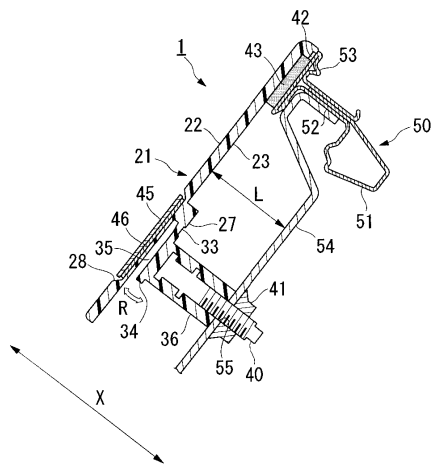
【 図 5 】



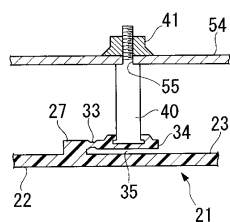
【 図 4 】



【 図 6 】



【圖 7】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭62-152852(JP,U)
実開平04-070551(JP,U)
実開平03-112450(JP,U)
実開昭62-095047(JP,U)
実開昭63-076562(JP,U)
実開昭61-198146(JP,U)
特開平09-118181(JP,A)
特開平6-270673(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B60R 13/01-13/04
B60J 5/04